

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域で豊かに生きていく力の育成をめざす。
本校において、豊かに生きていく力とは、
1 豊かなこころ 2 楽しむ力 3 体力 4 コミュニケーション力
の4つの力を重点とする。

2 中期的目標

- (1) 知的障がい支援学校として計画的で効果的な研修・研究に取り組み、授業力の向上をめざす。
(保護者アンケートにおいて授業に関する質問項目(複数の項目の平均)で肯定的意見80%をめざす。)[82.6%]
- ①学習指導要領に基づいた指導内容の充実に努める。(シラバスの作成)
 - ②障がいの多様化に応じた教育活動の展開ができるよう指導・支援の充実に向け授業改善を行う。
 - ③外部人材を積極的に活用する。
 - ④ICT機器の活用やタブレット端末を使用して興味関心を広げる授業づくりに取り組む。
 - ⑤児童生徒の実態を踏まえたうえで、生涯にわたる身体づくりに取り組む。
- (2) 小学部中学部高等部の継続性のある系統的なキャリア教育の充実に努める。
(教職員アンケートにおいてキャリア教育に関する項目(複数の項目の平均)で肯定的意見80%をめざす。)
- ①自立と社会参加に向けた必要な能力や態度を育てる。
 - ②小学部段階より児童生徒の実態に応じたキャリア教育を行い、学びや勤労の基盤となる能力や態度を育てる。
 - ③職業コース制の取り組みを年間を通じて定着させるとともに実施内容を充実する。
 - ④多くの児童生徒がスポーツ、文化活動等に親しみ、関係諸機関と連携し活動をする。
- (3) 特別支援教育のセンター的機能の発揮と地域と連携した安全で安心な開かれた学校づくりを推進する。
(保護者アンケートにおいて安心安全な学校に関する項目(複数の項目の平均)で肯定的意見の80%をめざす。)
- ①地域の学校園に在籍する障がいのある幼児児童生徒に対してセンター的機能を発揮する。
 - ②校内支援の充実に努める。
 - ③児童生徒の人権が尊重され、いじめ、体罰等の無い安心できる学校づくりを推進する。
 - ④交流及び共同学習に取り組み、居住地校、学校間の交流を行う。
 - ⑤働き方改革をさらに推進し、教職員の健康管理に努める。
 - ⑥80周年行事を通して、児童生徒に豊かな心を育む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 3年 2月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>本年度は安心メールのアンケート機能を使用して実施した。(登録されていない場合はプリントを配布) 回収率は保護者については62.8%と(昨年度比+6.8ポイント)教職員については73.4%(昨年度比+6.8ポイント)であった。 保護者集計において施設生徒については1、兄弟は1家庭としてカウントした。 A(よくあてはまる)+B(ややあてはまる)を肯定的回答、C(あまりあてはまらない)+D(あてはまらない)を否定的回答としてとらえた。 保護者アンケート 「教育的活動に関するもの」では21項目中19項目で肯定的意見が80%を超えている。また90%を超える肯定的意見が15項目あった。傾向は昨年と同様で、「学習内容・学校生活の様子や懇談や学級(学年・学部)通信、連絡帳によって知ることができる」が96%、(昨年度比+1ポイント)学校は日常の教育活動において、子どもの人権を十分尊重している。」が94%(昨年度比+2ポイント)であった。19項目中、15項目で80%を超えており保護者の満足度は高いものがうかがえる。しかしながら、「保護者や地域からの意見を聞く機会を持っている」や「他の学校の子どもたちとの交流をする機会を設けている」の項目で満足度は低くなっている。 地域とのつながりを積極的に進めていく必要がある。 教職員アンケート 全質問に関して「わからない」(14%)と回答している教職員が多い。平均16人の方が各質問に関してわからないと答えている。「教育的活動に関するもの」では「教員間での授業見学し授業方法の検討をする」(32%)の項目では肯定的意見が50%以下であり次年度に向け、見学する機会の工夫をする。「学校運営に関するもの」では「関係諸機関との連携」の肯定的意見(49%)や「校内支援について」肯定的意見(49%)の項目の満足度は低かった。「研修・研究に参加した成果報告の機会」の肯定的意見(38%)、これらの項目について改善を図る。</p>	<p>第1回学校運営協議会 令和2年5月20日開催(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面にて実施) ・会長・副会長の証人 ・令和2年度学校経営計画について ・令和元年度進路状況について説明 ・令和2年度教科書について 以上特に質問等無く承認された。</p> <p>第2回学校運営協議会 令和2年12月16日開催(本校新型コロナウイルス感染症の感染が確認されたため当日臨時休校となり急遽書面開催に変更した。) ・新型コロナウイルス感染症への対策について ・令和2年度学校経営進捗状況 ・令和2年度教科書について ・学校運送協議会実施要綱の改定について ・80周年記念行事について ・キャリア教育推進事業について 以上質問等無く承認された。</p> <p>第3回学校運営協議会 令和3年2月12日開催予定 ・令和2年度学校経営計画及び学校評価(案)、令和3年度学校経営計画及び学校評価(案) ・学校教育自己診断について ・キャリア教育支援体制強化事業について ・創立80周年記念事業について 以上について説明しその結果、承認された。 質問等特にご意見はなかった。 連絡事項として、委員の任期の確認を行った。 リモート開催についての環境などのご意見を伺った。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 知的障がい支援学校として計画的で効果的な研修・研究に取り組み、授業力の向上をめざす。	<p>(1) 学習指導要領に基づいた指導内容の充実に努める。</p> <p>(2) 障がいの多様化に応じた教育活動の展開ができるよう指導・支援の充実に向け授業改善を行う。</p> <p>(3) 外部人材を積極的に活用する。</p> <p>(4) ICT機器の活用やタブレット端末を使用して興味関心を広げる授業づくりに取り組む。</p> <p>(5) 児童生徒の実態を踏まえ、生涯にわたる身体づくりに取り組む。</p>	<p>(1) ・教科ごとに年間の学習題材や内容、評価基準を検討し、本校のシラバスを充実させる。</p> <p>(2) ・授業見学会を実施し各教員間で相互見学をする。 ・研究部が授業改善に向けた研修会を実施する。 ・学部を越えた教科会を実施し、系統的な指導計画や指導の実際について改善を図る。 ・校内研修体制を整備する。</p> <p>(3) ・大阪府福祉医療人材活用事業でPT、ST、OT臨床心理士を活用し、障がいの状況に合わせた指導法の改善に役立てる。 ・授業支援のためボランティアを活用する。</p> <p>(4) ・ICT機器の積極的な活用を推し進め、教員のICT活用スキルや活用頻度を引き上げる。</p> <p>(5) ・食に関する情報、食育指導において学習の様子などを情報発信する。 ・アレルギー対応、緊急救急訓練など継続的に研修を実施する。</p>	<p>(1) ・学校自己診断において「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」(保)において80%の肯定的回答をめざす。 (H29.74% H30.78% R1.75%)</p> <p>(2) ・自己診断において「見学する機会がある」(教)の意見が80%以上をめざす。(H29.78% H30.66% R1.64%) ・計画的に教科会を実施し学部間での意見交換を記録する。 (学期に1回) ・「校内研修組織が確立され計画的に実施されている」(教)において自己診断において肯定的意見75%をめざす (H29.78% H30.58% R1.62%)</p> <p>(3) ・福祉医療人材活用事業を活用し、いただいた指導助言を元に、校内研修会を行い指導に活かす。</p> <p>(4) ・ICT機器を活用した指導事例を5事例以上HP上で発信する。</p> <p>(5) ・HPを活用しながら、月1回発信をしていく。 ・救急訓練各学部1回、アレルギー一事案に対する研修(全体1回)を実施する。</p>	<p>(1) ・肯定的意見は85%であった。児童生徒が授業を楽しく思えてきている。引き続き目標維持にむけて、子どもの実態に応じた、授業内容の検討や教材づくりなどに取り組む。(○)</p> <p>(2) ・肯定的意見は32%であった。コロナ禍という状況の為、今年度は見学する機会が設定できなかった。教職員が相互に見学できる体制を再構築し、授業力の向上を図る。 ・各教科とも学期に1回計画的に実施しシラバスの確認や学部の実態など学部間での意見交換を実施した(○)</p> <p>(3) ・福祉医療人材については指導助言をいただき、児相生徒支援に活用している。学級やグループでの共通理解はできているが、全校的な研修には至らなかった。(△) ・ボランティアの活動は本年度においては、新型コロナの影響でほとんどできていない。(一)</p> <p>(4) ・ICT機器に関する指導事例を校内研修会で実施するとともに、ICT機器の効果的な実践方法の研修会を行い、多くの教員が興味を持って聞くことができた。 指導事例は各学部1事例(計3事例)あげることができた。(×)</p> <p>(5) ・給食だよりの発信(10月以降)とともに、給食週間の取り組みとして、リクエスト給食を実施し、給食時間中に放送を通じて地域の食材などについての話をし食育に取り組んだ。(×) ・各学部とも救命救急訓練を実施できた。例年は救急隊に来ていただき実施していたが、今年度は映像による研修が中心であった。アレルギーに対する研修を実施した。(○)</p>

府立思斉支援学校

<p>2 小学部中学部高等部の継続性のある系統的なキャリア教育の充実を図る。</p>	<p>(1) 自立と社会参加に向けた必要な能力や態度を育てる。</p> <p>(2) 小学部段階より児童生徒の実態に応じたキャリア教育を行い、学びや勤労の基盤となる能力や態度を育てる。</p> <p>(3) 職業コース制の取り組みを年間を通じて定着させるとともに実施内容を充実する。</p> <p>(4) 多くの児童生徒がスポーツ、文化活動等に親しみ、関係諸機関と連携し活動をする。</p>	<p>(1) ・「挨拶」、「約束を守る」などの基本的な社会生活を送れるスキルを学習する。</p> <p>(2) ・学部学年の発達段階に応じたキャリア教育を進める。 ・自己理解を深め、将来の進路について関心を深める。</p> <p>(3) ・職業コース制における授業の充実をはかる。</p> <p>(4) ・特別活動、クラブ活動を通じてスポーツや文化活動に触れる機会を持つ。</p>	<p>(1) ・生徒会活動の一環としてあいさつ運動を継続する。</p> <p>(2) ・小学部では、生活に即した体験学習を通じて自ら取り組もうとする力を身につける。 ・中学部では社会生活に関する関心を高め表現する力をつける。 ・高等部では実習を通じて社会生活に必要な知識技能をつける。「学校は将来の進路や職業について適切な指導を行っている。」(保)において肯定的意見80%をめざす。(H29. 74% H30. 83% R1. 77%)</p> <p>(3) ・在籍者の8%企業就労をめざす。(H29. 4% H30. 7% R1. 5%)</p> <p>(4) ・芸術を鑑賞する行事を実施する。 ・スポーツ・文化活動に触れる機会を持つ。地域の「おいでな祭り」に出店する。</p>	<p>(1) ・コロナ禍で例年のように登校時の密を避ける為あいさつ運動はできなかったが、放送での全校集会で、あいさつの啓発を行ったり、ポスターでの啓発を実施したりした。(○)</p> <p>(2) ・小学部においてはキャリア教育の視点に立った体験活動(清掃活動、買い物学習等)の取り組み内容を校内掲示し、振り返りを通して自発的な行動につなげた。(○) ・中学部においては、職場体験実習は実施できなかったが、高等部の校内実習の見学を行い、実習に関心をもつことができた。(△) ・高等部では、1.2年生の新型コロナの為実習は見合わせた。2年生職業コースの生徒に関しては、企業見学を複数回実施し、働くことへの意識を高めることができた。(△) ・肯定的意見が80%(+3ポイント)である。早期からのキャリア教育に取り組み、本校のキャリア教育プランの実践をしていく。(○)</p> <p>(3) ・企業就労は現在8名の内定をいただいた。他に3名の選考中の生徒がいる。(内定率16.7%) (○)</p> <p>(4) ・運動会、思斉祭(文化祭)、芸術鑑賞会などの行事が新型コロナの為実施できず、また地域の祭りも中止となり子どもたちに機会が与えられなかった。思斉祭は練習に取り組み、保護者の前では演技できなかったが、保護者にはビデオ等でご覧いただけた。(一)</p>
<p>3 特別支援教育のセンター的機能の発揮と地域と連携した安全で安心な開かれた学校づくりを推進する</p>	<p>(1) 地域の学校園に在籍する障がいのある幼児児童生徒に対してセンター的機能を発揮する。</p> <p>(2) 校内支援の充実を図る。</p> <p>(3) 児童生徒の人権が尊重され、いじめ、体罰等の無い安心できる学校づくりを推進する。</p> <p>(4) 交流及び共同学習に取り組み、居住地校、学校間の交流を行う。</p> <p>(5) 働き方改革をさらに推進し教職員の健康管理努める。</p> <p>(6) 80周年行事を行い、児童生徒の豊かな心を育む。</p>	<p>(1) ・大阪市インクルーシブ教育推進担当と連携をし、スムーズに地域支援を実施する。</p> <p>(2) ・校内支援体系の見直しをはかる。</p> <p>(3) ・教職員対象の人権研修会の実施と人権意識の向上をめざす。 ・いじめの早期発見、早期解決に向け組織的な対応を心がける ・防災・防犯の避難訓練を実施する。</p> <p>(4) ・地域の小学校中学校との交流及び共同学習を継続して行い、互いを尊重する気持ちを育成する。 ・高等部においては淀商業高校、淀川清流高校との活動を継続し、相互理解とともに豊かな人間性の育成に努める。</p> <p>(5) ・超過勤務の削減に向け週に一度の定時退庁日と毎月20日の定時退庁日をさらに徹底する。</p> <p>(6) ・各学校行事に80周年記念の冠をつけ、児童生徒に祝う心を育てる。</p>	<p>(1) ・支援をした学校を対象としアンケートで5点満点中3.5点以上をめざす。(R1 3.4)</p> <p>(2) ・リーディングスタッフ主催の研修会を学期に1回実施する。</p> <p>(3) ・自己診断において「人権尊重の支援指導が行われている」(教)の項目で肯定的意見90%をめざす。(H29. 82% H30. 76% R1. 69%) ・いじめ0件を継続する。 ・あらゆる可能性を想定した避難訓練を継続実施する。</p> <p>(4) ・自己診断において「交流の機会を設けている」(教)の項目で肯定的意見90%をめざす。(H29. 84% H30. 77% R1. 87%)</p> <p>(5) ・定時退庁日の19時以降の退庁者を毎月5%未満にする。</p> <p>(6) ・80周年行事において児童生徒保護者を含めた形でマスコットキャラクターの制作をする。</p>	<p>(1) ・支援の依頼に関してはコロナ禍ではあったが、応じることができた。支援を実施した学校園からは概ね3.4の評価であった。(△)</p> <p>(2) ・研修会は、新型コロナの為実施できなかったが、担当より「思斉のしせい」という国立特別支援教育総合研究所の研修参加者が研修の報告をプリントの形で毎週配布し職員の研修にした。一層の校内支援体制が必要となってくる。(△)</p> <p>(3) ・肯定的意見が59%であった。人権意識の向上が必要。(×) ・校内対策委員会を実施し、共通理解のもと、学年集会等を実施し、事案の防止等に努めている。0件を継続している。(○) ・本年度、避難訓練とともに、下校引き継ぎ訓練を保護者とともにやる。事前に参加の有無を調査し、可能な家庭のみ実施する。参加家庭を増やしていきたい。(○)</p> <p>(4) ・肯定的意見は69%(-18ポイント)であった。 ・小学部においては、コロナ禍で、人的な交流は実施せず相手校の作品展に作品参加を実施した。見学については、今年度は見送った。中学部・高等部とも人的な交流は見送った。(△)</p> <p>(5) ・一部退勤が遅くなる教員もいるが、超過勤務が月80時間越えの教職員はいなかった。定時退庁日の19時以降の退庁者の3.4%平均で、定時退庁日の習慣はできてきた。(○)</p> <p>(6) ・周年行事に関しては、記念誌の作成、マスコットキャラクターの制作はできた。多くの児童生徒保護者教職員の投票で選ばれたもので、今後の活用を考える。(○)</p>